

知って得する医師の話シリーズ72



特定健診の話

医務技師 須藤 大輔

特定健診（正式には特定健康診査）のご案内がこられた方も多いかと思います。この健診は平成20年度から国の事業として全国的に開始されました。主な目的は、日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの方を対象に、メタボリックシンドロームに着目した健診を行い、該当者は専門スタッフ（保健師、管理栄養士など）から生活習慣を見直すサポート（特定健診指導）を受けるというものです。

メタボリックシンドロームは肥満症（BMIが25以上）のうち動脈硬化の進行が早くなっている状態で、腹囲・血圧値・血糖値・血清脂質値により定義されています。医学的に疾患（病気）に該当し、つまり単に‘太っている’では済まされずに治療が必要な状態です。治療せず放置していると、将来的に動脈硬化が原因となって起こる心筋梗塞、狭心症、脳梗塞などを発症する危険性が高くなります。

鹿児島県（平成26年度）では、特定健診の受診率は47.9%（全国23位）、メタボリックシンドロームの該当者割合は15.7%（7位）、特定保健指導の実施率は24.7%（12位）となっています。メタボリックシンドローム該当者が多い割には特定健診の受診率が全国平均とやや低めです。生活習慣病は、バランスの取れた食生活、適度な運動習慣を身に付けることにより予防可能です。ご自身の健康状態を毎年確認し、健康づくりにつなげていくことが重要です。1年に一度、特定健診を受診し、生活習慣の改善が必要な方は特定保健指導を受けましょう。

特定健診の締め切りは8月31日です。まだ受診されていない方はご自身が加入している医療保険者（自営業の方は市区町村へ、会社等へお勤めの方（被扶養者を含む）は、お勤め先）までお問い合わせ下さい。お勤めの方で、事業者健診（お勤め先で実施する健診）を受診された方又は受診予定の方は、新たに特定健診を受診する必要はありません。

新任医師の紹介

※平成29年7月1日より、医師が新しく着任しました。



外科部長 青木 大（あおき だい）

出身地：南さつま市
前勤務地：指宿医療センター
専門分野：外科
趣味：最近は断捨離
抱負：がんばります。



消化器外科部長 上木原 貴仁（かみきはら たかひと）

出身地：枕崎市
前勤務地：出水郡医師会広域医療センター
専門分野：外科
趣味：映画・音楽鑑賞
抱負：がんばりますので、よろしくお願ひします。



セクション紹介（透析室）

透析室看護師長 新徳 良一

透析室はベッド数15床、透析装置16台（病棟透析可能1台含む）、1日15名～20名の透析治療を実施しています。医師2名（常勤医師1名・非常勤医師1名）、看護師5名（臨床工学技士兼務2名、臨床工学技士3名）の職員で業務に従事しています。

当院の透析室は、南薩地区の中核病院として紹介患者さんや緊急を要する患者さんを受け入れており、質の高い透析看護の提供と安全で安心できる医療機器を提供できるように臨床工学技士が日々保守点検業務を担っています。

最近の患者さんとの話題は、透析室の窓に緑のカーテンとしてぶどうの木（巨峰）とパッションフルーツの木を育て、沢山実っており日々の成長を話題としています。週3回の透析治療に対する何らかの変化をもたらし、気分転換としての役割となっております。（どうしたらこんなプランターに見事なフルーツが実るのか園芸部は凄い。）

今後も患者さんと病気のことや日常生活のことなど関わりを深め、安心・安全な医療・看護の提供に努めてまいりますので、宜しくお願いいたします。

ぶどうの木（巨峰）



パッションフルーツ



防火訓練を実施しました

今年度第1回目の防火訓練を6月30日（金）に実施しました。

今回の訓練は、転入者や新規採用者を中心に、消防設備の確認や使用方法を学ぶ基礎訓練と消火器、AEDを用いた実技訓練を行いました。

また、7月4日には、災害時の情報伝達訓練を全従業者を対象に実施しました。

『基礎訓練』



1病棟と3病棟に分かれて院内の消防設備（煙感知器・防火扉等）の機能や設置場所の確認を行うとともに、火災発生時における各病棟から消防署への119番通報及び消火栓の使用方法、並びに避難誘導経路の確認を行いました。



『実技訓練』



梅雨期の訓練であることから、この時期としては実に5年ぶりに、青空の下、新規採用者や未経験者6名による消火器の実技訓練を行いました。

また、大会議室にてAEDの実技訓練も併せて行い、取扱い技術の向上を図りました。



災害は、いつ、どこで起きるか分かりません。

被害を最小限に止め、迅速かつ適切な避難活動を行うため、薩南病院は、今後とも防災対策に積極的に取り組んでまいります。



ふれあい介護体験を実施しました



7月26日（水）に「ふれあい看護体験2017」を実施しました。

実際の看護場面を通して看護の喜びを感じてもらおうと、地元の高校生に参加を募り、加世田高校の女子生徒2名、川辺高校の男子生徒2名、吹上高校の女子生徒2名で計6名の参加がありました。

はじめに「薩南病院の概要・役割」と「看護の日」について説明し、病院内の施設を見学してもらいました。平日の午前中の開催でしたので、病院内の各部署の活気ある業務を見ていただけたと思います。

看護体験は、3つの病棟に分かれて、患者さんの車椅子の移動介助や患者さんとのコミュニケーションなどの体験を実施しました。

「患者さんから喜んでもらえた」「今日の体験で医療職への憧れが強くなった」などの感想をいただきました。また、看護に関する大学や専門学校を選ぶ基準、奨学金についての質問などを積極的にいただきました。

この経験をとおして、看護に対してさらに興味を持っていただけたらと思います。



松実会砂像づくりをしました



6月15日（木）病院正面の玄関横に砂像がお目見えしました。

松実会の6月の活動の一環として作成したもので、来年の大河ドラマにちなんだ西郷さんや、金峰山の金太郎とその仲間たちが表現されたものとなっています。

患者さん、南さつま市役所の方々、そして当院スタッフも加わり、皆で協力・連携しながら心を込めて作成しました。



○当院の正面図・周辺地図



【所在地】 〒897-1123 鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4

【TEL】 0993-53-5300

【FAX】 0993-53-6764（事務室）、53-5436（地域医療連携室）

☆ 地域医療連携室 相談支援センター（外科外来横）では、患者様やご家族からのご相談をお受けしております。どうぞお気軽にご利用下さい。

薩南病院の理念

県立薩南病院は、中核的病院として地域医療に貢献し、住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指します。

方針

- 1 職員は、常に「患者さんのための病院」であることを自覚し、安全に充分配慮して医療サービスを提供する。
- 2 職員は、常に研修・研究し、医療の質の向上に努める。
- 3 職員は、常に「和」をもって、より充実したチーム医療を実践する。
- 4 県立薩南病院は、常に他の医療・保健・福祉機関と連携し、効果的で最善の医療を提供する。